

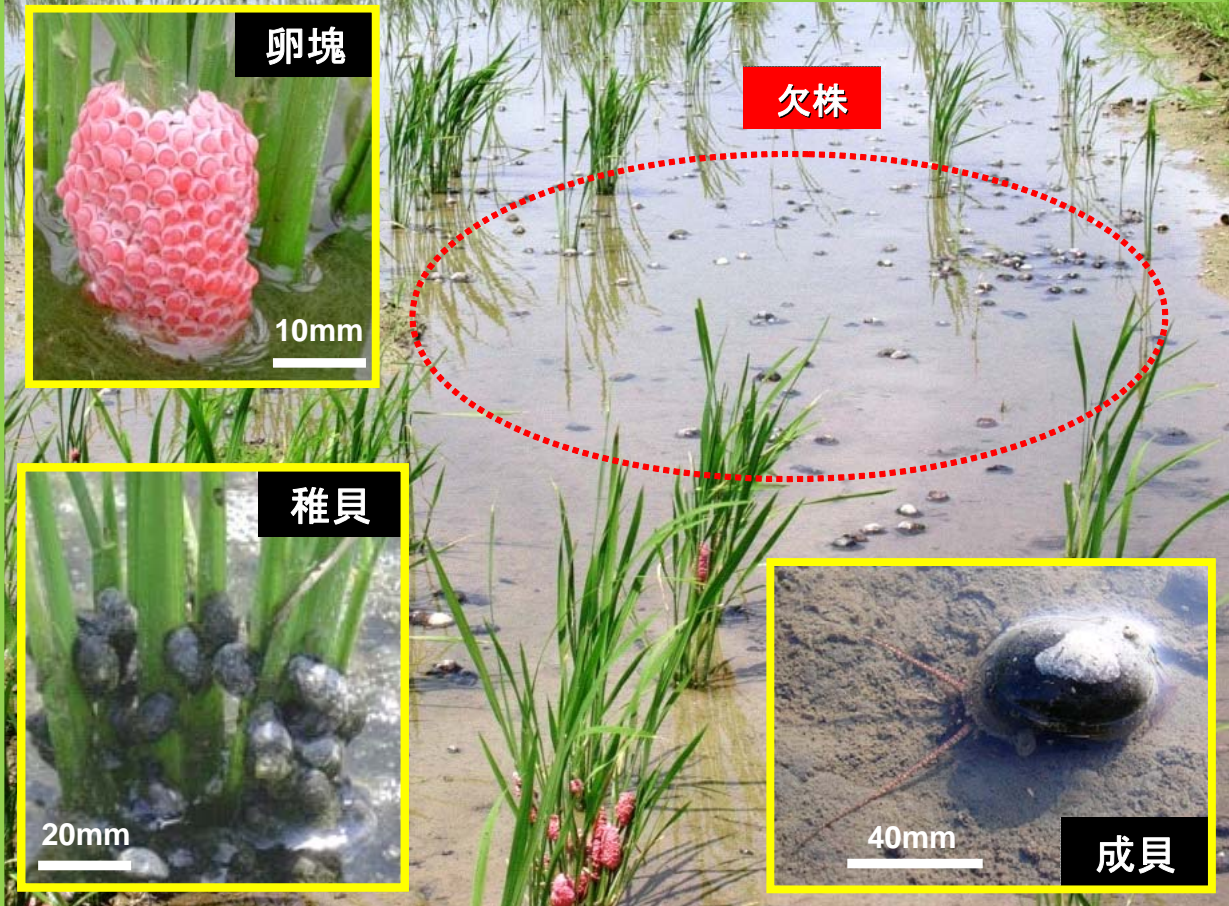
平成25年度病虫害発生予報第6号(9月予報)

＜お知らせ＞ 新植夏植におけるイネヨトウの防除対策についてのコラムがあります(14ページ参照)。
キク立ち枯れ性病害の防除対策についてのコラムがあります(15ページ参照)。
イネヨトウの性フェロモントラップへの誘殺数の推移について以下URLに掲載しております。
<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojournal/documents/h25-ineyo.html>

今月のトピックス

スクミリンゴガイ(水稻)

学名 : *Pomacea canaliculata*



生態と被害

淡水巻貝であるスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)は南米原産で、1980年代前半に食用のためアジア各国に持ち込まれたが、野生化した貝が生育初期の稲を加害し問題となっている。日本では、特に九州・沖縄での被害が大きい。

本種の卵塊は直径2mm程度の卵が数十～千個含まれており、水上の植物などに産み付けられる。孵化までの期間は、25℃の場合は約2週間である。夏に生まれた貝は秋までに殻高1～3cmになり、そのまま土中で越冬する。本種は乾燥に強く、フタを閉めた状態であれば水がなくても半年以上生存可能である。越冬貝は翌年の春に水田に水が入ると活動を再開して夏に盛んに繁殖する。

本種が被害を及ぼすのは田植え後、約3週間までの若く柔らかい苗である。多発すると欠株や生育障害が生ずる。水深の深い部分で被害が多い。

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojournal/index.html>